

【ミニ分科会で”とことん討論”】

司会/進行 寺子屋三粒の種 塾長・ファシリテーター

木村 航氏

1) ミニ分科会

これから3時半までミニ分科会ということで引き続き進行させていただきます。よろしくお願いします。

これからは皆さんが主役となっただき、思う存分話し合い語り合ってください。ではこれよりミニ分科会を開催します。

参加者お一人お一人が、今一番語り合いたいと思うことに関して、自分の興味のおもむくままに動き回り、情熱を傾けていただきたいと思います。これから2時間、全員の皆さまに次のようなお仕事をさせていただきます。皆さんがどれだけ熱意と情熱をもって参加されるかによって、このフォーラムに相応しい成果や、活かせるものが生まれてくるものと思います。是非ランチタイム後の眠気を吹き飛ばすような時間になればいいなと思います。

午前中最後の、おしゃべりタイムでミニ分科会のテーマを書いてもらいました。40枚余り集まりましたので、昼休みの間に事務局において11のサブテーマとして次のように纏めました。

《サブテーマ》

- A ボランティアと行政に溝はあるのか？ あるとしたら埋められるか？
- B 世代交代や世代間コミュニケーションはどうすればよいか？
- C 誰がボランティア活動を担い続けていくのか？
- D ボランティア同士のコミュニケーションを深めるには？
- E 私は役に立っているか？ 私はここにいてもいいのか？
- F 良い交流のあり方とは？
- G ボランティアを楽しむとはどういうことか？
- H マンネリに陥らないために、何をしたらいいのか？
- I 施設は何を求めているのか？
- J 資質を高めるにはどうしたらいいのか？
- K 定年はあるか？交通費や対価は受けているか？実情はどうなっているのか？

これからは、皆さんが最も興味ある『サブテーマの掲げてあるテーブル』に行ってください、そこに集まった方々とお話をさせていただきます。

「11のそれぞれのサブテーマ」について、多様な立場と視点で語り合い見いだしたものをその後、全体で共有します。

ここでミニ分科会についての大切なことを申し上げます。

多様な立場・視点で語り合っていくなかで、「問いかけ」（サブテーマ）について一つの決まった回答を出す必要はありません。世代の違う人々が集まっている、その人たちにはそれぞれの経験・意見・見識があります。そういう人達が多様な視点で「あっ、そうか！」と体験することを楽しんで頂きたい。一つの問いかけに対していろいろな意見があることを味わっていただき、味わい尽くした後、そこから私たちは何かを見出して「形にする」ところに入っていきますが、それについては後ほど説明致します。そして「11の問いかけ」に、皆さんがそれぞれ熱意を持って1番話したいと思うテーブルに集まってもらいます。

この場合、そのテーブルに次のような役割を持った人がいると盛り上がります。

◇ ある一人は、熱意をもってサブテーマに向き合う人。

正にこの問いかけのために今日のこのフォーラムに来た、と言わんばかりの勢いでこの一つのテーマに対して討論を深めていく人。

◇ もう一人は、受け止める人、応援する人。

熱意をもってサブテーマに問いかける人に、どうしてそう思うのか？

そう思った経験はどこからくるのか、など聞いてあげる人。（共に考える人）

◇ こんな人もあってもよい、歩き回る（ぶらぶら歩き回る）人。

あちこちのテーブルを回り、情報を集め、見識を深めアイデアを各所へ媒介させてあげる人。こんな人も全体にとって大きな意義があると思います。

大事なことは、一人一人が、私は「こんなことを話したい」と思うこと、そして自ら進んで話すことで、この場が作られるということを理解していただきたい。

11の各テーブル（A~K）に一つずつ「問いかけ（サブテーマ）」があり、最も興味あるものを選んでもらいますが

◇ 8人以上集まったテーブルは、サブテーブルを設けて分割します。

（発言回数増やすため）

◇ 途中で、他のテーブルに移動しても構いません。（その人の自由意思で移動）

次に、ミニ分科会を進めるうえでの大事なことを、もう2点申し上げます。

◇ それぞれのテーブルで、ホスト役を1名決めてください。

ホストの方はサブテーマについて「どのような事を思っていますか」など一人一人に話を振ってあげてください。

◇ また机上のクラフト紙には自分の意思や想い、仲間の「これはと思う発言」何でも結構ですので、手には必ずカラーマジックを持ち、落書きを残してください。この落書きは、移動してくる人にも分かるように、また模造紙に纏める時の資料にもなります。

それでは、皆さんサブテーマを選び、そこに移動しましょう。

各自思い思いにサブテーマが掲げられたテーブルへ移動、結果、（A~K） 11 あるテーブルの内 FとI. 2つのテーブルは希望者不在となり空席となった。Aテーブルは希望者8名をオーバーした為、サブテーブルを設けA（2-1）、A（2-2）に分割 計10テーブルとなる

皆さん、1時間半ほど経ちました。今10のテーブルがあります。テーブルを渡り歩いてきた人もいれば、一つのテーマを熱心に語り合ってきた方もいらっしゃいます。これから3時半まで、今までグループで話し合ってきたことを「見える形」に纏める共同作業をしていただきます。各テーブルに模造紙が配られたと思いますが、テーブルの中心に置いてください。これからしていただくことを申し上げます。

今、配られた紙は **news paper**（新聞）と名前をつけたいと思います。
どのような新聞かといえば、1時半から3時まで「私たちはサブテーマについて、こういう事を話し合ってきました」と報告する新聞です。だから結論を出そうということではありません。私たちのところには、「このような人がいて、このようなことを語り合い、このようなことが共有できました」ということが分かれば大丈夫です。

そこで今から、行っていただきたいことが2つあります。

- ◇ 出された意見、アイデアを箇条書きにしてください。必ずしも箇条書きでなくても構いません。報告が主旨ですから、このような人がいて、具体的にこのようなことがあったと書いてあった方がエピソードとして理解されやすいかもしれません。
- ◇ ここからが共同作業で、そこで出されたエピソード、アイデアの中から話し合いのうえ“ツボ”というものを選んでください。“ツボ”はこのフォーラムのタイトルにもなっています。「ボランティアが活きる“ツボ”とは！」「ボランティア活動を活かすとは」「活かされたボランティア活動とは」について我々も話してきましたが、その重要な“ツボ”とは何か？それぞれのグループで出た話の中から選んでいただきます。選ぶということは箇条書きにした中より「これぞ“ツボ”」と思うものに大きく○印をつけてください。今1時間半ほど話したメンバーでこれが1番大事、面白い、大笑いしたこと等、これを共有したいと思うものをチェックしていただければ結構です。

“ツボを選ぶ”ポイントとして

- 共感性が高い。（なるほどとグループで確認した）
- これは面白そうだ。（前向きだ、エネルギーが湧き出てくる）
- 実現性が高い。（明日からでも誰かが実行できるかもしれない）

以上参考にしてグループで選んでください。次は3時40分から再開します。

2) 全体共有タイム

「活かされたボランティア活動とは」というテーマで10のサブテーマを設定しました。話し合いの中で11のサブテーマが選ばれましたが、結局10のテーブルで話されています。そしてそれぞれのテーブルで話されてきたことを **News paper** として見る形にして、とりわけ全員で共有したことは○印で“ツボ”として表示してもらいました。これから10の“ツボ”というものを全体で共有していきたいと思います。

まず、それぞれのテーブルで **News paper** を掲げてもらい全員で確認しましょう。これから順番に **News paper** を読み上げてまいりますので、書くに至った経緯などを解説してください。共有していく中で他のグループがどのようなことを話していたか聴くことをこの時間の目的としたいと思います。

(これより A グループより順次経緯説明。解説始まる)

News paper A グループ (2-1)

○ボランティアと行政に溝はあるのか？ あるとしたら埋められるのか？

＊行政の担当者の異動により引継ぎがうまくいっていない。

(ボランティア側の不満)

・ 解決策 ⇒ 二人体制にする

上司の役割。(次、後任を育てるまで代わりをする)

↓

行政側の職員教育

＊ボランティア自身の自発性学びへの意識の低下。目的がわからなくなっている事がある。 (行政からの問題点)

行政とボランティアをつなぐ“担当者”が ツボ

<メンバーの一言>

ボランティアと施設側には深い溝があります。それを上手く繋ぐのが担当者。ボランティアを活かすも殺すも担当者がりーどして両者が話し合えば、良い施設の運営ができる。

<ファシリテーターの一言>

ボランティア行政の溝、担当者に希望を見出す。

○ボランティアと行政に溝はあるのか？あるとしたら埋められるか？

＊ボランティアと行政がうまくいっている例

＜太宰府万葉の会＞

- ・ 設立から 19 年/ 会員数 40 名内役員数 10 名
- ・ 万葉、地域の歴史の勉強会としてスタート
- ・ 太宰府市から観光ガイドをしてもらえないかとの依頼有り
(ボランティア活動のスタート)
- ・ 財源（運営費）は会費 ⇒ 自立
- ・ 長年活動を熱心に続けてきた ⇒ 努力
- ・ 市の観光施設 10 周年イベントを任された
- ・ お互い認め合う関係

ボランティアの ツボとは

財源 ⇒ 自立
熱心に続けてきた ⇒ 努力

＜メンバーの一言＞

メンバーは常に心を一つに、行政ともうまくいき感謝しています

＜ファシリテーターの一言＞

- ・ うまくいっている例「いくらでも結構です。」
- ・ 財源は会費
- ・ 長年熱心に続ける⇒「最初はいろいろあったけど」⇒問題は問題なのか？

○世代交代や世代間コミュニケーションはどうすればよいか？

＊若い人に興味を持たせる仕掛け。

- ・ 祭、
- ・ 異性間の交流、
- ・ 情報の伝達方法、
- ・ 興味がありそうな情報、
- ・ ボランティア後の楽しみがある、
- ・ 郷土の自慢、子どもを巻き込む行事)

＊それぞれの対象に合った企画

- ・ 話し方に工夫

＊意見が出やすい環境づくり

＊聞く耳をもつ

＊よそ者の力を利用する

最終的によそ者の力を利用することが上手いく

ツボ だと考えました。

<メンバーの一言>

地元の人には見えにくいところも、他所者の目線で見える場合が多々ある。

<ファシリテーターの一言>

よそ者の力を利用する。

News paper C グループ

○誰がボランティア活動を、担い続けていくのか。

* ボランティアは気づき！気づいた人が行なっていくもの。

* 自分自身が楽しみながら「担えるうちは、担うだけ担う！」

* 自分たちで作ったものはいつでもやめられる、という覚悟。

* 楽しみながらやっていけば誰かが見ていて、続く人が出てくる かも。

* 次に気づく人が生まれてくる。

* やめてもそこから新しい芽が生まれる。

(思いがあればつながっていく！)

の囲みが ツボ

<メンバーの一言>

高齢化が話題となった中でこのような気持ちでやれたら楽だね。
皆も共感してくれるだろうと盛り上がりました。

<ファシリテーターの一言>

いつでもやめられる覚悟をもつこと。
(気軽にできる)

○ボランティア同士のコミュニケーションを深めるには？
(ボランティア同士の交流を深めるには)

＊受け入れる側

リーダーを中心にしたボランティアさんの相互理解

＊一つのあり方として全員に発言の機会（パス可能）が与えられていること

＊飲ニケーション、バスハイク、研修会、花見等の機会を持つ

＊世代の良さを活かす

- ・10代～20代 ⇒ 行動力
- ・30代～40代 ⇒ 中心となる
- ・70代 ⇒ 気づかい

＊連絡方法

- ・70代 ⇒ 家に行く・電話 FAX 封書（病気、年金、孫の話）
- ・30代～40代 ⇒ 携帯電話、メール
- ・10代～20代 ⇒ SNS、（LINE、face book）

ツボ とは

全員に発言機会があることが、リーダーを中心とした全員の相互理解となる。

<メンバーの一言>

会議では発言力の強い人の意見が重要視されがちだが、多くの意見を聞く為に全員の意見を聞くようにしたほうが良い。参加意欲が沸く、但し強制はダメ。

<ファシリテーターの一言>

若い人 SNS ⇒ 若い人が加わると話題に化学反応が起きる。
異なるコミュニケーション

（SNS とは人と人とのつながりを促進サポートする「コミュニティ型の会員制サービス」）

○私は役に立っているか？ 私はここにいてもいいのか？

＊私は役に立っている。 私はここに居て良い。

【理 由】

- ◇ 他の人と比較せず好きなことをすればよい。
- ◇ 仲間を信じ、助けてもらえばよい。
- ◇ 他の人と参加できることを喜べばよい。
- ◇ 悩むことは責任感が強いことの表れなので、自分をほめて良い。
- ◇ 都合の良い時に参加できることは、ボランティアの特権。
- ◇ 間違ふこと失敗は誰にでもある、次の肥やし。

ツボとして

- ・ 責任感が強いこと
- ・ 失敗も次の肥やし

<メンバーの一言>

たかがボランティア、されどボランティア。

出来ることを出来る時できる人が、存在することが素晴らしいこと。

<ファシリテーターの一言>

「私はここにいていいのか？」⇒「いて、いいんです」

「でも、頑張りすぎないで」・・・責任感がよく現れています。

○ボランティアを楽しむとはどういうことか？

*私的には

- ・好奇心、興味
- ・企画、アイディアの実現。
- ・楽なもの。（気楽なもの）
- ・自分を高める喜び

*公的には

- ・相手が喜ぶ（認知）
影絵
点字ボランティア
ステージの運営。
子どもたちに古代疑似体験。

□のところが ツボ

～要望事項として～

この素晴らしいフォーラムをもっと PR して欲しい。

<メンバーの一言>

文化ボランティアとは、分からないことも、分かってくることも楽しい。

自分のモチベーションが高まることも楽しい。

世間に認められることが楽しい。

○マンネリに陥らないために何をしたらいいか？

- *若い人に活動に加わって欲しい。
⇒そのために楽しい雰囲気と新しい企画が必要
- *アイディア帳やアンケートによってアイディアを提供してもらう。
⇒活動に活かす（具現化）（継続は力なり！）
- *任期を決めてリフレッシュする。
- *ボランティアを渡りあるく ⇒スキルアップ・刺激
（ボランティアグループの横のつながりがあるところ）
- *ボランティア養成スキルアップ講座（研修を）行う。
- *私はプロのボランティアを目指していますが、長くなると
ボランティア内での温度差を感じる。
- *ボランティアの中で活動を引っ張っていく人が必要

楽しい雰囲気を保ち、アイディア帳やアンケートでアイディアを、提供し具現化する。

思い切って任期を決めメンバーのリフレッシュ

長・・・い ツボ

<メンバーの一言>

新しいことを提案して具現化すること、思い切って定年制を設けマンネリを打破する。

<ファシリテーターの一言>

- ・アイディア帳やアンケート ⇒新しいものを作っていく。
- ・みんなで具体化する。 ⇒年に1コか2コ
- ・定年制を決めてリフレッシュする。
- ・プロを目指す人とネガティブな人がいる。

○ 資質を高めるには、どうしたらいいか？

*** 自分のモチベーションが大事**



相手の感動が自分の感動になる



自己研鑽



自分のモチベーションが大事

<メンバーの一言>

活動が続けるにはモチベーションを維持すること。

モチベーションを持ち続けるには、相手からも感動を貰うこと。

自己研鑽は、モチベーションに繋がる。

<ファシリテーターの一言>

循環しているということ。

News paper

K グループ

○定年はあるのか？交通費や対価は受けているのか？
実情はどうなっているのか？

＊ボランティアに定年は無い。

・人生経験豊富な人ほど、ボランティア意識が高い。

＊ボランティアに交通費やそれに代わる対価があったほうが良い。

・ボランティアを継続するためには必要最低限の対価が必要

＊実情はそれぞれである。

・年会費¥3.000 ガイド料1日につき交通費¥500

定年なし

・年会費¥2.000~3.000 1回出席で¥500 定年なし

・年会費¥0 交通費¥0 定年有り

・2年更新

ファシリテーターの一言

定年はない ⇒ 知識、経験が深まるから。

対価の形はお金だけではない。他の方法もあるのでは。

以上10のNews paperを見て共有してきましたが如何でしたか。

今日皆さんが書いたNews paper自体が、私たちの今回のテーマ「活かされたボランティア活動とは」「ボランティアが生きる“ツボ”とは！」に対する今の到達点というか、成果だと思います。この成果を是非皆様のお仲間とも共有して頂き、今後の活動に役立てていただきたいと思います。

これを持ちまして、私の領域は終わりです。有難うございました。